

第6回須賀小学校地域拠点施設検討委員会会議録

1 開催日時

令和6年1月23日（火）午後7時00分～午後9時00分

2 開催場所

宮代町役場 202 会議室

3 出席者（委員）

佐々木誠委員長、川野達則副委員長、石井大晴委員、中村隆委員、上田悟委員、金野泰久委員、星野花恵委員、乙幡弘子委員、諸星香代子委員、宍戸ゆみ委員

（町：関係課長）町民生活課長 吉永吉正、子育て支援課長 横内宏巳

（事務局：教育推進課）教育推進課長 田中啓之

（事務局：宮代町立須賀小学校の再整備等地域拠点施設整備プロジェクトチーム）

小川雅也（教育推進課教育総務担当）リーダー、

関根雅治（町民生活課地域振興担当）サブリーダー、

吉田直子（子育て支援課こども保育担当）、高林優子（町民生活課危機管理担当）、

川崎章人（教育推進課生涯学習・スポーツ振興担当）、

高橋道彰（教育推進課教育総務担当）、須原大輔（教育推進課教育総務担当）、

福満正寿（総務課人権・男女共同参画担当）、山下夏鈴（産業観光課商工観光担当）

（須賀小学校地域拠点施設基本計画策定業務受託業者）

株式会社東畑建築事務所 久保・門脇、Life Work 内海

4 欠席者（委員）近藤隆委員、谷義明委員、唐松奈津子委員、小坂周平委員

5 次第

1 開会

2 基本計画概案について

3 その他

4 閉会

6 議事（要旨）

1. 開会

佐々木委員長より挨拶

2. 基本計画概案について

東畑建築事務所：基本計画書概案の説明。

ワークショップ「基本計画原案について気になること」を2グループに分かれて意見交換、発表。

○グループ1の話し合い概要

- ・再整備する小学校の視点から昇降口や配膳室などの諸室配置や動線について議論
- ・その他、防災のこと、校庭のこと、学童保育所の動線・運用、中学生との関係、駐車場のことなどについても議論

○グループ2の話し合い概要

- ・和戸・須賀地域の活性化について、地域拠点施設をとりまくエリアについて議論
- ・その他、気軽に立ち寄れる場所や既存中学校との関係、校庭の広さや遊具、地域利用のアプローチ、防災についても議論

LifeWork内海：校庭や広場の大きさや、交流のしやすさを考えたときに、自治体経営会議ではかえでのスペースを多目的ホールにするなど、敷地の有効活用を検討していく必要があるのではないかという意見が出ました。
これに対し意見や考えのある方はありますか。

上田委員：かえでは別として、校庭の広さについて、昔勤めていた蓮田南小学校は須賀小よりも敷地面積が狭かったが、活動面積が広くなるように工夫したことがある。

佐々木委員長：かえでの樹齢は何年か。寿命が永くもつのであれば残してもいいのではないか。

PTメンバー：昨年11月に樹木医の診断結果では健全と診断されました。

宍戸委員：かえでの移植はできないのか。切るか切らないの選択しかないのか。

東畑建築事務所：かなりの大木であり、移植は困難だと思われるため、切る切らないの選択肢になると思う。

上田委員：もしかえでの木を切るとなれば、地域の意見を聞いておいた方がいいと思う。

川野委員：約30年前に小学校に在学時したときは、校庭の真ん中にかえでがあるため野球やサッカーの活動がしにくかった。

だが、須賀小にはかえで児童クラブ（学童）などのようにかえでをモチーフにしている場合もあるため地域の方にとって、かえでが大事であれば残した方がよいと思う。そうでなければ切るという選択もあると思う。アンケートを取る方法もあると思う。

上田委員：キャッチコピーにかえでが入っていることも踏まえた方がいいと思う。

石井委員：議論の中で、かえでの木を切って、それを再利用する意見もあり、よいと思った。

かえでを残して建物が出来上がった後に、かえでがなくなってしまったらその場所の意味がなくなるのではないか。

かえでを再利用して使い続けていくことも一つの案だと思う。

佐々木委員長：新たにかえでを植えなおすという前向きな考え方もできると思う。

上田委員：須賀小の運動会に行ったときにかえでの木の下は日陰になって休憩場所になると話を聞いたことがある。

中村委員：木が邪魔だと思えば切るのもよいと思う。

穴戸委員：建物を建てた後にかえでの木を切ることになったら大変ではないか。撤去できるのか。

東畑建築事務所：現在のプラン案はかえでの周りに広くスペースをとって計画しているため、建設後であっても撤去は可能だと思います。倒せる方向に倒して撤去していくことになると思います。

LifeWork 内海：建設後に撤去することになっても、空いた場所は中庭として使えると思います。

東畑建築事務所：外から来ている立場として肯定・否定なしに個人的な意見を言うと、これだけ歴史のある木をこれから生むことはなかなか難しいと思います。歴史のあった木がここにあったことを残すこともよいと思います。

プランを考えていく中で、かえでのあるなしはプランに大きく影響していません。むしろ、室内環境のことを考えると、今の案でかえでの木がある広場くらいの広

さを持った中庭を設けた方がよく、偶然、かえでのあるスペースを活かし、活用したものとなっています。

20年、30年後にあの場所にかえでがあったと思いをさせるスペースが残っているかどうかの方が大事だと思います。

かえでの木を撤去し、かえでの木がどこにあったのか分からないような計画案になったときに、誰の心にも残らないものになると思いますこれまで歴史を重ねてきたかえでや、守ってきた地域の方に申し訳が立たないのではないかと、これまで多くの方とヒアリングしてきて思っています。全国を見渡してもこのような学校は稀だとも思います。

LifeWork内海：どんぐりピアノと同様でこの地域らしさなのではと思う。かえでは落葉樹なので管理の課題や大変さもあると思うが、夏は陽を遮り木陰をつくって、冬は落葉して建物に日が差すように、環境のコントロールをしてくれる存在ではあると思います。

以上のご意見から、絶対的な意見はなかったので、総合的にかえでの扱いを判断していければいいと思います。

3. その他

PTメンバー：2月初旬に役場内の自治体経営会議に回り、基本計画の内容について意見を伺う予定でいます。

次回、第7回検討委員会は2月15日に開催する方向で調整しています。

明日1月24日は視察を実施するため、スキップ広場に朝9時45分集合となっています。

4. 閉会